

巻頭言 —アレルギー疾患治療における生物学的製剤の役割—

皆様こんにちは。今月は、アレルギー疾患の治療薬、特に生物学的製剤について、ご案内させていただきます。

5月頃は、スギ花粉の飛散も落ち着いてきているものの、まだ花粉症で苦しんでおられる患者さんも多いと思われます。アレルギーを抑える内服薬や点鼻薬、点眼薬などを使用しても症状が重い患者さんには、アレルギーを引き起こすIgEという抗体（免疫グロブリン）を標的とした抗体治療薬・生物学的製剤が有効です。IgEは気管支喘息やじん麻疹、他のアレルギー症状が発生する一因で、この分子を狙い撃ちで制御することは、治療する上で理想的といえます。しかしながら、アレルギーを引き起こすメカニズムは複雑で、一つの分子を制御しただけでは治療がうまくいかない場合もあります。これまで多くの臨床試験を行った結果、各疾患に対する有効性と副作用、費用のバランスが優れている治療が、保険適応として認可され、患者さんの治療に用いられています。



＜呼吸器内科＞
松倉 聡 教授

アレルギー疾患に対する治療薬・生物学的製剤

薬剤名(商品名)	標的分子	適応疾患
オマリズマブ(ゾレア)	IgE	気管支喘息 季節性アレルギー性鼻炎 特発性の慢性蕁麻疹
メボリズマブ(ヌーカラ)	IL-5	気管支喘息 EGPA
ベンラリズマブ(ファセンラ)	IL-5 受容体	気管支喘息
デュピルマブ(デュピクセント)	IL-4 (IL-13) 受容体	気管支喘息 アトピー性皮膚炎 結節性痒疹 特発性の慢性蕁麻疹 鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎
テゼベルマブ(テゼスバイア)	TSLP	気管支喘息

IgE の他にも、サイトカインと呼ばれる分子が、アレルギー症状に深く関与していることが分かってきました。サイトカインを標的とした抗体治療薬・生物学的製剤が、気管支喘息やアトピー性皮膚炎、副鼻腔炎などの疾患に有効であることが知られています。また、EGPA(好酸球性多発血管炎性肉下腫症)と呼ばれる、全身に血管炎を引き起こし、喘息発作や神経障害、各臓器の出血、発熱などの症状の要因となる病気がありますが、これには抗 IL-5 抗体治療というものが有効です。表にアレルギー疾患治療薬として保険適応・認可されている生物学的製剤(抗体治療薬)を示します。

上記の生物学的製剤は皮下注射薬です。“注射”と聞くと、副作用が強い、怖い治療なのではないかと思われる方もおられるかと思いますが、ほとんどの方は大きな副作用はありません。アレルギー反応などを生じる場合もありますが、頻度は少ないです。重症の場合や、基本的な治療、局所ステロイド療法などを行っても病状をコントロールできない場合には、点滴や内服などの全身性ステロイド治療が必要になることがあります。その副作用には注意が必要です。副作用には、肥満、糖尿病、脂質異常症、高血圧など様々あります。一方で表に示します重症アレルギー疾患の場合、通常の治療に生物学的製剤による治療を追加することで、従来必要であった全身性ステロイド治療を減量または中止することができる場合も多く、薬剤による副作用を軽減・回避することが期待できます。

投与頻度は2週間～8週間に1回で、通院頻度が極端に増えるわけではなく、ご自身が皮下注射を自宅で行う場合もあります。費用が高額であるのが一番の問題点だと思いますが、疾患によっては難病指定を受けること、自己注射とすることにより費用を軽減できる場合があります。また、高額医療制度をうまく活用していただくのも大切かと考えます。

当院は、日本アレルギー学会から専門施設として認定を受けております。アレルギーは様々な臓器に生じ、多彩な症状を引き起こしますが、それに対応する各専門科・専門医が当院には配属されております。アレルギー症状に苦しむ患者さんには、かかりつけの医療機関と連携して診療にあたり、少しでもお役に立てるよう善処いたします。

P1. 【巻頭言】—アレルギー疾患治療における生物学的製剤の役割—

P2～3. 【医学講座コーナー】認知症について

【お知らせ】NICU・小児病棟の改修を行いました

P4. 【患者さんからのご意見・ご要望】・【編集後記】



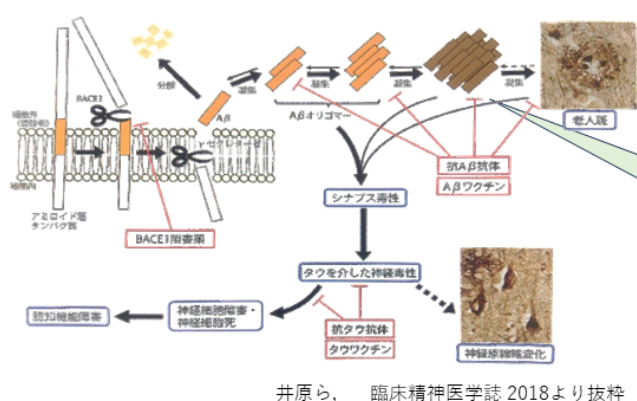
【医学講座コーナー】認知症について

〈メンタルケアセンター 准教授 富岡 大〉

これからの認知症ケアに「レカネマブ」という新しい治療薬が登場しました。この新しいお薬には、アルツハイマー型認知症の症状に対する進行予防が、期待されています。一方で認知症という病気には、患者さんご本人だけでなく、介護をされるご家族や支援者の方々にとっても負担や悩みが続くことが問題となっています。これから認知症ケアでは、新しい治療とともに介護生活のために負担を抱えているの方々を見逃すことなく行政福祉等のサポートとつながっていくことがより大切になります。

認知症はなんらかの原因により脳の神経細胞が変化し記憶力や判断力、感情のコントロールなどが苦手になってしまう病気です。これまで、認知の症状進行をやわらげるためのお薬は、残された神経細胞の働きを活発に促す効果があるものでした。そのため、アルツハイマー型認知症のような、脳の神経細胞が変化してしまうこと自体は抑えることが出来ませんでした。しかし、新しいお薬であるレカネマブは、アルツハイマー型認知症での脳の神経細胞の変化そのものを抑え、認知症の症状進行を抑える効果が期待されています。

アルツハイマー型認知症の原因



アミロイドβ (Aβ) タンパクがたまりと老人斑が形成されます。このため神経細胞が変化して働かなくなることが、アルツハイマー型認知症の原因の一つとされています。

このアミロイドβ (Aβ) の沈着を抑える効果が期待されているのが、**抗アミロイドβ (Aβ) プロトフィブリル抗体**であるレカネマブというお薬です。

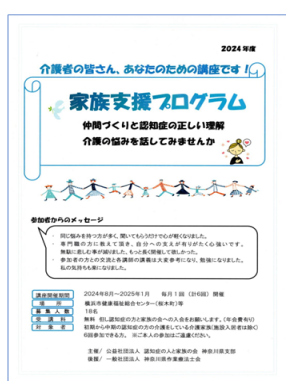
このお薬による症状抑制には大きな期待がありますが、まだ新しいお薬であるため効果や副作用などこれから多くの調査も必要です。現在のところこのレカネマブは、まだ認知症には至らない程度の段階である「軽度認知機能障害」という状態の方や、軽症のアルツハイマー型認知症の方にのみが使用可能となっています。また、脳出血などの副作用が起こることがあるため慎重な投与や継続した検査が必要であり、お体の病気をお持ちの方の場合は利用できない方もいます。認知症において、進行抑制のためのお薬とともに大事なことは、生活習慣の見直しによる予防的な取り組みです。お薬以上に重要な生活習慣の改善を生活のなかに取り入れていくことが大切です。

【医学講座コーナー】認知症について

〈メンタルケアセンター 准教授 富岡 大〉

一方、現代では核家族化、少子化とともに介護者の不足も大きな問題であり、認知症の症状によって介護や施設利用、入院も必要になります。現在、社会的に問題となっている若年性認知症の方へのサポートや少人数のご家族のみで介護の負担を抱えている方へのサポートが急務となっています。病院や地域福祉での相談や手助けとなるサポートには認知症カフェや家族会の相互サポートなどありますが、なかなか必要な人に必要なサポートが届かないことも現状の課題です。認知症の治療や介護のためのサポートに関する情報を正しく有効活用していくことは重要で、患者さんやご家族への大きな助けになります。お住いの地域にある行政窓口や病院に安心して相談しやすい仕組みを整えていきます。

認知症の人とご家族への支援（横浜市）



認知症の人と家族の会神奈川県支部 ホームページより
<https://azkanagawa.sakura.ne.jp/wp/>



横浜市ホームページより
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/fukushi-kaigo/koreisha-kaigo/ninchisyo/ninchisyo-sodan/ninnti-cafe.html>

2

【お知らせ】NICU・小児病棟の改修を行いました

この度 NICU 及び小児病棟の一部を改修いたしました。

NICU はこれまでの 9 床から 12 床へ増床し、小児・新生児診療をより充実させて参ります。

NICU



NICU 陰圧個室



処置室（小児病棟）



プレイルーム（小児病棟）

患者さんからのご意見・ご要望

ご意見・ご要望	回答・改善等
他の病院では保険証を使ったことがありません。 半年前から、すべてマイナンバーカードで処理しています。 対応が遅いのでは。	この度はご不便をおかけし申し訳ございませんでした。 現在、外来診療時間内でマイナンバーカードによる保険証確認ができる機械は、中央棟1階インフォメーション受付と中央棟地下1階救急外来受付に設置している2台のみとなっております。そのため、各診療科受付では従来通り保険証をご提示いただき、保険証確認を実施しております。 マイナンバーカードでの保険証確認につきましては、各診療科で受付をする前に中央棟1階インフォメーション受付又は、中央棟地下1階救急外来受付の機械にマイナンバーカードをかざしていただき、各診療科受付にその旨をお伝えいただけますと保険証の確認ができます。現在、機械の増設の準備も進めております。ご理解とご協力の程よろしくをお願いいたします。 (回答部署：医事外来課)
面会者が病室のトイレを使用するのはおかしいと思う。コロナ・インフルが未だ流行の中、感染症に気を付けなければならない患者にとって、外部の人が利用するトイレを共用するのは不安で仕方ない。また、病状的にトイレが頻回な者にとって常に利用されていると、入るタイミングがなくなり大変困る。面会者用トイレを利用するよう案内してほしい。	この度はご不便とご心配をおかけし申し訳ございませんでした。 入院時の設備案内の際に、面会者用トイレについてのご説明を徹底します。 また、面会者用トイレに表示がありませんでしたので、この度、表示することに致しました。 貴重なご意見ありがとうございました。 (回答部署：看護部)

編集後記

新緑が木々を鮮やかに彩りはじめました。この時期は旬の行事が多く、気候も過ごしやすいですね。皆様にとって5月はどんな季節でしょうか？私は、幼少期より様々な季節湯に入る習慣のある家庭で育ちましたが、端午の節句（5月5日）に入る「菖蒲湯（しょうぶゆ）」を特別楽しみにしていたことを思い出します。

そもそも「菖蒲湯」の由来は、古代中国の風習にあるとされています。厄災や疫病が蔓延しやすい旧暦の端午の節句（現在の6月）に、邪気を祓う効果があると考えられた菖蒲を、軒下につるしたり、根を刻みいれたお酒を飲んだりする風習が生まれました。その文化は奈良時代に日本へ伝来し、厄払いや薬草として菖蒲をお風呂に用いるようになり、「端午の節句」＝「菖蒲湯」とこの時期の風習として定着したそうです。

リラックス作用や血行促進が期待でき、肩こり腰痛にも効果があるとされる菖蒲湯。疲れの出やすいこの時期のちょっとしたリフレッシュにいかがでしょうか。

(臨床工学室 松崎 来未)

北部病院だより 第191号（2024年5月1日発行）

発行責任者 門倉 光隆（昭和大学横浜市北部病院長）

編集責任者 緒方 浩顕（広報委員会 委員長）

発行 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000(代表)

URL：<https://www.showa-u.ac.jp/SUHY/>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。

